

平成23年度広島・愛媛交流会議議事録

日時 平成23年10月31日(月)14:00～15:30

場所 広島商船高等専門学校練習船「広島丸」

出席者(敬称略)

広島県知事 湯崎英彦

愛媛県知事 中村時広

広島県商工会議所連合会会頭 深山英樹

愛媛県商工会議所連合会会頭 白石省三

1 開会

(伊達部長)

それでは、定刻となりましたので、ただ今から平成23年度広島・愛媛交流会議を開催いたします。

私は、本日の会議の進行役を務めさせていただきます広島県経営戦略部長の伊達でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、湯崎広島県知事がご挨拶申し上げます。

2 開会あいさつ

(湯崎知事)

それでは、あらためて本日はよろしくお願いいたします。

今日は大変お忙しい中、中村知事、そして白石会頭、深山会頭、皆様、ここ大崎上島にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

この愛媛・広島交流会議も歴史を重ねてまいりましたけれども、もう中村知事とも何度も意見交換させていただいていますが、実はこの交流会議というのは初めてということでございまして、そういう意味では白石会頭も、深山会頭も初めてご参加いただくということで、なぜか私が一番のベテランになっていますけども、これからしばらくこういう体制になるかと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたしますと思います。

そして、今回のこの場所でございますけども、これまでのイメージですと、広島県と愛媛県は瀬戸内を挟んである、逆に言うと瀬戸内が両県を隔てているかのようなイメージもあったのではないかと思います。私はこの瀬戸内海こそが広島県と愛媛県をつないでいるところであると考えております。

この地域は、愛媛、そして広島がまさに入り組んで島々がつながっているところでありまして、これからはこの海を中心に、両県の結びつきをさらに強めていこうという中で、相応しい場所ではなかろうかと思って、やや時間もかかりますけども、恐縮ながらお集まりいただいたという次第でございます。

我々は、地域主権、地方自治の強化というのを求めているところでございますが、こういう形で我々自身が持っている、他にはないものというものを強めていくということがやはり大きな鍵になっていこうかと思っております。そういう意味で、今日は、この両県の発展のために、ご忌憚のないご意見をいただきながら、この結びつきと同時に我々のこの経済・社会面における発展を目指してまいりたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

どうぞ、今日はよろしくお願い致します。ありがとうございます。

(伊達部長)

それでは、皆様、初参加ということでございますので、皆様方より一言ずつご挨拶いただきたいと存じます。

まず、中村知事様のほうからよろしくお願いいたします。

(中村知事)

どうも今日はありがとうございます。

湯崎知事には非常に粹な会場を設定いただきまして、天気も上々で、最高の会議ができるのではなかろうかと思えます。

お話にありましたように、湯崎知事とは幾度となく意見交換もさせていただきまして、年齢も近いということもあって、また民間経験もあるということで、大いに発想豊かに両県の発展のために本当に力を合わせることがあったらいいねというような話を深めているところでございます。

特にこの瀬戸内は、我々にとっても宝、広島にとっても宝、その共有財産を大いに活かして実際の成果へと結びつけていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(伊達部長)

白石様、よろしくお願い致します。

(白石会頭)

愛媛県商工会議所連合会の白石でございます。

このたびは、このようなセッティングを本当にありがとうございました。1時間あまりフェリーでゆったりときれいな海を見ながら、久しぶりにのんびりさせていただきました。

我々経済界では県と県の境は全くないのと一緒でございますが、私どもは船のボイラーを造っているんですけども、もう40年も前にこの瀬戸内海のあちらこちらの造船所にお伺いしていましたので、懐かしく思い出しながら来ました。

どうぞよろしく申し上げます。

(伊達部長)

それでは深山様、お願いします。

(深山会頭)

広島県商工会議所連合会の深山でございます。

この会議は初めてでございますけれども、昨年 of 年末まで広島経済同友会の代表幹事を務めておりまして、地域連携・広域連携を重点テーマとして取り組んでおりました。特に愛媛県さんとは非常に交流を深めさせていただいております。

両県は非常によく似通った気質もあるなと思っておりましたのは、マツダスタジアムができました際、隣県の方をお招きして一緒に見学をいただいたんですが、愛媛県は中四国9県の中で広島の次にカープファンの方が多かったということでありまして。ちなみに岡山県の方をご招待したときは、ほとんど阪神ファンの方がいらしたということでもあります。

白石会頭とも事業所の取り引きもございまして、親しくさせていただいておる仲でございます。どうかよろしく願いいたします。

(伊達部長)

ありがとうございました。

協議につきましてはフリートークということといたしておりますので、湯崎知事に、以後、進行役をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

3 意見交換

「1 瀬戸内海地域の活性化について」

(湯崎知事)

それでは早速、協議の進行をさせていただきたいと思えます。

まず最初に、一番目の議題であります瀬戸内海地域の活性化についてご協議させていただきたいと思えます。

開催県ということで、私から「瀬戸内海の道構想」についてご案内を申し上げたいと思えます。

スタートする前に1つだけ、お手元にあるお水でございますけども、これは広島県の企業が作りました水道水で、とてもおいしいという専門家の太鼓判もいただいておりますのでぜひ召し上がっていただければと思います。

それでは「海の道構想」についてお話をさせていただきます。

今年3月に「瀬戸内 海の道構想」を取りまとめましたが、これまでも何回かご紹介をさせていただいております。この構想の中では、景観、芸術文化、食文化という3つを、非常に重要な要素として打ち出そうとしております。また、こういった要素を体感していただくために様々なプログラムを提供しようとしておまして、「瀬戸内サイクリングロード」、これは愛媛県とも非常に重要なつながりがございます。あるいは「里・海・島の五感体験ツーリズム」でありますとか、「船と航路とみなと賑わい」といったような形、これを戦略テーマと呼んで7つ選んでおります。地域が一体となって中長期的に取り組んでいこうとしておるところでございます。

瀬戸内サイクリングロードはご承知のとおり、日経新聞で、日本で最も素晴らしいサイクリングロードに選ばれておりますし、その他にも広島県側で言いますと、安芸灘諸島にありますとびしま海道、岡村島まで橋でつながっておりますけども、こういった様々なところもございます。

その他にも、水軍でありますとか、もちろん文化、造船、あるいは定期航路と言ったような形で非常に両県共通したものがございますし、自然環境も、これは両県まさにボーダレスでご提供できるものではないかと思っておりますので、これは自治体の枠組みを越えてご協力を呼び掛けたいと考えております。

これを、私は瀬戸内のブランド化というふうに申し上げておりますけども、この瀬戸内全体を取り扱っていくためには、やはり各県のそれぞれの、ちょっと言葉は選ぶ必要がありますけども、それぞれがただ単に寄せ集まっただけですと、どうしても我が県のことを宣伝したいということになりがちでありますので、それを越えた、全体のことを考えて、全体が発展するために働くといったような組織の受け皿というものが必要ではないかなとも考えております。

ブランド管理であるとか、あるいはプロモーションといったことを、そういったところが担って、全体を押し上げていく。その中で、また各県がそれぞれのサービスセットの中で進めていくといったようなことが考えられるのではないかと考えておまして、そういった組織体を広域プラットフォームというふうに我々は呼んでおります。これは現在、既に愛媛県さんにも担当部署ベースでご相談させていただいておりますけども、いろいろなお意見をいただきながら、最終的に間もなくプラットフォームの概念について取りまとめたいと思っております。

それを踏まえて、ぜひ両県の協力を進めていきたいと思っておりますし、また、経済界も一体となって進めていただければと思っておりますので、何とぞよろしくお願いをしたいと思っております。

私からは以上でございますけども、この件について中村知事のほうからございましたらお願いいたします。

(中村知事)

私は昨年までは、市の立場で直接まちづくりの最前線に立っていたんですけども、そのときに一番根幹に考えていたことは、まさに湯崎知事が最初の挨拶で触れられた、そこにしかない魅力というものを徹底的に磨く、それがその地域の力というものにつながっていくんじゃないかなということでした。

私は子どものころから、この瀬戸内海が大好きで、「波穏やかな紺碧の海に浮かぶ無数の島々が、自分のふるさとの宝ものです」ということをよく言っていたような気がするんです。実は、これは愛媛の宝であると同時に、広島でもこの多島美の美しさというのは全く同じ宝である、共有財産だと思うんですね。そこで、それを活かすまちづくりというのも、昨年の12月の知事就任以来、自分の中でいろいろと模索をしております。

今、湯崎知事のお話にあった、景観、芸術、食文化、まさにそのとおりだと思います。景観については、今申し上げたようにどこに出しても恥ずかしくない素晴らしいものがある。例えば橋にしても、ここからここは釣鐘橋、次の島へ行くとアーチ橋と、非常に見る価値もあるということがこのしまなみ海道の魅力なのかなというふうにも思っていました。

芸術については、広島にはいろいろな島の中に美術館であるとか、豊富な拠点があると聞いていますし、愛媛ですと、特に大三島あたりには美術館が結構たくさんあって、今年も2つ新たにできたんです。ですから、それなんかも連携すれば更にお互いの魅力がアップするんだろうなということをつくづく感じます。

食文化もやっぱり島ならではの共通項で、しかもそこにはそれぞれの島の特色や文化があるということで、こうしたものも掘り下げていくと面白いものが生まれてくるのかなというふうに思います。

また、湯崎知事はサイクリングに非常に熱心に取り組みられて、今愛媛のほうでもいろいろな取り組みをしようということなので、これはもう橋と橋がつながっていますから、広島と愛媛の力を合わせれば、世界に冠たる世界有数のアマチュアサイクリストのメッカにすることができるんじゃないかなというふうにも思っています。

最後に、広域化のお話があったんですが、このプラットフォームづくり、非常に大事な視点だなというふうに思いました。このプラットフォームに関して、連携を作り上げるときにかつてこんな経験をしたんですけど、愛媛県の中ですべての市町村が参加する広域観光連合みたいなのがあったんです。ところが、これは悪いところが出まして、うちがうちがというところが全面に出て、うちにはこれもあれもあるとてんこ盛りの提案がそれぞれから出てきて、出来上がるものと言ったら一体何が何だかさっぱり分からない。皆同じようなことを言って、ただ年に一回パンフレットを作って終わりというようなことだったので、実は当時、松山市が脱会しまして、1回粉々に破壊して作り直したことがあるんです。

大事なことは、それぞれの町の魅力をてんこ盛りじゃなくて、一番いいところに焦点を絞って、それをお互いが認め合って共有し、そしてお互いの立場を尊重し合う関係ができたら、素晴らしいプラットフォームができるんじゃないかなと大いに期待して、この「海の道構想」に大賛同させていただきたいと思っています。

(湯崎知事)

ありがとうございます。それでは、両会頭からもお願いをしたいと思います。白石会頭、お願いいたします。

(白石会頭)

大分前から、産官学というのがよく言われているんですけども、この間、私も愛媛大学との交流会で、どうも今、産が一番弱いんじゃないかと言われてまして。どうも最近、産業界が弱いのかなと、元気がないような気がしております。こういう活動は、最初は官に主導で引っ張っていただいても、その後に産業界がきちっと乗っていかないと、やっていただいた意味がないんじゃないかと思っておりますので、そういう点も顧みまして、できるだけ会員の人に乗ってきていただけるようなことをしなければいかんのかなと思っております。

それと、私はもうこの歳ですから、だんだん孫も大きくなって、家族旅行というのがメインになりまして。松山で言えばとべ動物園というのが本当に素晴らしい、旭山動物園より私は大分立派だと思うんですが、それとか宮島水族館とか。いろいろ家族で楽しむ方向になりつつあるんじゃないかと思うんですが、そういうことにもつなげていければなど、そんなふうに思っております。

どうぞよろしく申し上げます。

(湯崎知事)

ありがとうございます。それでは、深山会頭、お願いします。

(深山会頭)

我々経済界も広域連携、地域連携は非常に重要な課題として取り組んでおりますが、やはり発想が、まず自分のところでやってみて、それを充実させて、隣県なり近くの地域に広げていこうという発想でやってきておりますが、やはり冒頭の湯崎知事のお話にもありましたように、少しアプローチの仕方をこれから変えていく必要があるんじゃないかというのを、強く感じておるところでございます。

実際にやってきたのは、先ほど大崎上島町長からのお話にもございましたように、「広島ベイエリア・海生都市圏研究協議会」というのを、平成12年に立ち上げてまして、今年で11年目になっておりますが、そのときお話もございましたように、重点事業の1つに掲げております瀬戸内の特性を生かした体験型修学旅行の誘致事業に力を入れてやっているところ

ろでございます。修学旅行生に農業や漁業などを体験してもらうプログラムを整備したり、民泊、いわゆるホームステイの受け入れを行うための住民の方への研修会でありますとか、そういったものを積極的にやってまいったわけでありまして、これをやはり今までの考え方でありまして、瀬戸内を取り巻く地域資源の調査を行って、そういった体験プログラムを作っていこうと、これは広島県さんのご支援をいただいて、今年の4月に私ども会議所のビルの5階に開設をしております体験型修学旅行誘致推進室というのを、組織を立ち上げましてその中で今申し上げたような活動に取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

(湯崎知事)

ありがとうございました。

全般的に皆さん、この瀬戸内を一体的に振興していこうという点については、一致をいただいていると思います。中村知事がおっしゃったように、その中で単なる寄せ集めになりますと、何をやっているのかわからないということになりますので、そのご経験もやはり十分踏まえる必要があると思います。

やはりこれを進めていく上でのリーダーシップが重要ですし、またそのリーダーシップにいったんそれぞれの自治体なり地域、あるいはいろいろなテーマ、サイクリングであるとか、そういうところがいったん預けるものは預けて、その中でまた自分の役割、振興する部分というのを果たしていくというような、そういう姿を描く必要があるのではないかと改めて感じた次第でございますけども、ぜひ一致団結して進めさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

引き続きこの瀬戸内海地域の活性化につきましては、愛媛県側からもご提案があるということなので、中村知事お願いいたします。

(中村知事)

これは、実は松山市長のとときの経験の延長線上にあることだったんですが、当時、市町村合併で、6つの有人島を抱える中島町という、こういう大きな島ではなくて小さな、それこそ100人から一番大きいところで2、3千人の島を合併して一緒にやることになりました。当時、島の人たちには、「合併したら名前も消える、島には海と農業と漁業しかない、もうこの島は終わりや」というような諦めムードが漂う中でのスタートだったんです。

私はつくづく思ったんですけど、住んでいる人にとっては当たり前のものが、実はとんでもない価値を持つことってあると思うんですね。これしかないと思っていた島の自然や海や農業や漁業が、例えば都会の人から見ればまさに垂涎の的になるわけです。非日常の空間になってこたえられない魅力に映るわけです。そういう話をずっと島民の皆さんにしながら、ただ1つ申し上げたのは、待っていても事業というのはやってくるものではないし、事業というものは行政が主導でやったら失敗すると。まず住民の皆さんがやるぞと

いう気持ちになってもらわないといろいろな仕掛けは魂が入らないんだと、そんな話を小さいながら、小さいからこそできた面もあるんですが、やっていました。

2～3年かけて、やってみるかというような空気が出来上がり、島の活性化を考える協議会が横断的に立ち上がりまして、そこから行政がバックアップするという体制を作り始めたんですが、そこで目標にしたのが、島の魅力を多くの方々に伝える「まつやま島博覧会 2010」というイベントでした。これは、お金をあまりかけたわけではない、むしろほとんどかけてないですね。今、島にあるものをフルに活用すると。食もそうですし、景観もそうですし、それから伝統文化の行事なんかも「これも実はすごく面白いし魅力があるんですよ」というような話をして復活させたり、それを2年、3年かけて準備しました。

プレ島博をやった後、本番に臨んだんですが、これは松山だけの小さい話なんですけども、各島が持っているものを松山市に持ち込んで、初日のオープニングイベントをやったんです。島の人たちは「こんなんでも人が来るんかいね」という懐疑的な意見を持ちながらスタートしたんですが、広島規模から見たらささやかかもしれませんが、1日で5万人の人がぱっと来て、島から持ってきたものは4時間で全部売り尽くしてしまった。島の人たちはそれで自信を持って、約半年を通した島博覧会のイベントに突っ込んでいったんです。自分たちの町が素晴らしいんだというのがわかった。自信を持ったからアピールする。そのアピールが人々に伝播して人が来るようになった。そんな島博覧会を経験しました。

だから、せっかく今度は愛媛県全体、ましてやもし広島と一緒にできるならば、まさに多島美のこの素晴らしいものを生かして、広島 愛媛で「大・島博覧会(仮称:以下同じ)」という企画をすることができたらなと、そんな夢を追いかけたいと思っています。

そのときに、さっきの話と重複しますが、広島さんもどんどん先駆的に取り組んでいるサイクリングについては、このときに合わせて一発世界のアマチュアサイクリストが集うようなビッグイベントを構えるというようなところと引っ掛けて、「大・島博覧会」の実現に向かって走ってみたいなと思っていますので、ぜひまた力を合わせることができたらと思っています。

(湯崎知事)

ありがとうございます。

それでは、私の前に白石会頭と深山会頭から、よろしければ。

(白石会頭)

先ほど高校生の修学旅行の体験というお話がありましたけど、私、実は中学時代に、山の中の学校でプラスバンドに入っていたんですけど、毎年夏休みに中島町で学校を借りてキャンプを、多分1週間ぐらいしていたと思うんです。ああいう子どもたち、学生たちのキャンプを瀬戸内海でやるというのは、いろいろな体験ができて、もちろんマリンスポーツもありますし、非常に面白いのかなと思って昔のことを今思い出していたんですけど、

そんなこともあるんじゃないかと思います。

(湯崎知事)

ありがとうございます。では、深山会頭。

(深山会頭)

今お話のございました、サイクリングロードを世界一のものにしようという大目標を掲げてやるという、非常に夢があって、現実に実現できるテーマではないかというふうに思っております。

これはもう2年前になりますが、経済同友会の際に自転車で実際に走ってみました。そのとき感じましたのは、もう既に改善はされているかと思うんですが、どっちかという尾道側からあと何キロとかという標識を充実する必要があるんじゃないかなど。それと自動車道と自転車道の境界が一部ちょっとはっきりしないところがあるなということを感じましたのと、あと、そのときに全国の同友会に向けて「海の道構想」のサイクリングロードの意見も求めたんですが、そのとき「知っている」という回答が私の記憶では19%でございましたので、これもまだまだ情報発信をこれからしていかなくちゃいけないなと思った次第で、2年前の話でございますので、既にかなり改善されている部分もあると思います。そういうふうに感じました。

(湯崎知事)

ありがとうございます。

まず、中村知事のご提案の「大・島博覧会」。我々も「瀬戸内 海の道構想」の具体的中身の1つとして、非常に素晴らしいものになるのではないかと思いますので、大賛成でございます。連携して取り組ませていただければと思います。これをきっかけに、島の美しさ、海の美しさ、それを日本中の人、また世界中の人にもご理解いただけるようなものにできたらなと思います。

それからサイクリングにつきまして、今、深山会頭から厳しいご指摘もございましたけども、恐らくそれはビフォー湯崎の時代かなど。今、実は尾道を起点にしまして、ブルーのラインをずっと車道に引かせていただきまして、そこをたどればずっとサイクリングコースとして通ることができます。従来は自転車用の舗道というか、自転車の入れる舗道を整備するというのがありましたけども、そうではなくて車道を青くペイントして、そこをずっと走ればたどり着け、その中には、距離標をつけるようにいたしましたので、今はだいぶ改善をしたのではないかなと思っております。

そういったことも含めて、だんだんと認知も高まっていると思いますので、ぜひこのサイクリングコースを使って世界規模のサイクリング大会、これも素晴らしいアイデアだと思いますので、実現に向けて協議をさせていただければと、私も思っております。

(中村知事)

1 ついいですか。

(湯崎知事)

はい。

(中村知事)

せっかく今日、両会頭さんがいらっしゃるので、例えば愛媛の商工会議所青年部がしまなみ海道の広島側を自転車で走り、広島商工会議所青年部が愛媛側を走って、問題点をお互いが提起するとか。自分たちのことって見えなくなっている部分もあるのかなと思うので、そんなことをやったら面白いアイデアが出てくるかなというふうに思ったんですが。

(湯崎知事)

交換サイクリングですか。

(深山会頭)

おっしゃるとおりでございますが、やはり地元の間人で、その中にいるとなかなか良さも悪さも気が付かないことが結構ございますので、やはり今のような交換と言いますか、意見を交わし合うというのは非常に大事なことはないかと思えます。

(白石会頭)

愛媛の青年部も多分喜んでやります。

(湯崎知事)

じゃあ、ぜひ、これは商工会議所青年部にお願いしますか。

(中村知事)

でもいいですね。

(湯崎知事)

よろしいですかね。まあ、JC でもいいかもしれません。

(中村知事)

JC でもいいです。

(湯崎知事)

今治と尾道も巻き込んで。当事者がいないのですが、ぜひ実現に向けて。

(中村知事)

思いつきもいいところなんですが。

(湯崎知事)

いやいや、そういうのが大事ですので。歴史は夜じゃなくて、この昼間の青空の下で作られるということで。

その他、もう少し時間がございますので、この瀬戸内の活性化について何かございましたら、フリートークということでお願いをしたいと思いますけれども。いかがでございますでしょうか。今、中村知事のご提案がございました。

(深山会頭)

既にご承知と思いますが、最近では全国各地で自治体などが商店街と協力し合いまして、出会いの場の創出というのをやられている。これが数百人から千人規模のイベントになっておる。いわゆる「街コン」と言われているものですが、広島や松山でも、それぞれ「街コン」と言われておりますが、県外からの参加者も多いということでもありますので、やはり両地域を連携させて観光客の誘致に活用したらどうかというふうに思っております。

広島では、去年ですか、そういったものを「ひろコン」という名称でやりまして、事前に前売り券のようなものを配りまして、それが利用できる店というのを指定して、そこへ若者が集まるということで随分賑わいができておると聞いております。私、実際にはまだ行ってないんですけど、この両地域でやっていったらどうかというふうに思います。

それから、この土曜日、日曜日に食の祭典であります「ひろしまフードフェスティバル」をやりまして、約 400 の出店がありました。今回は、愛媛県商工会議所連合会のご協力で愛媛県のブースを2つ出していただきました。ちょっと人数は数えてないんですが、そこにもかなりのお客さんが、雨の中にもかかわらず随分訪れていただいたというふうに聞いています。

こういうふうに連携できるものはできるだけ両地域が連携してやっていったらいいんじゃないかというふうに思っております。

(湯崎知事)

ありがとうございます。

フードフェスティバル、既に愛媛県さんに出ているということで、これをもっともっと活用していただければと思うと同時に、逆に愛媛県でそういったイベントがあったら、我々としてもぜひご協力させていただきたいということかと思えます。

また「街コン」ですね。これは具体的にはどんなイメージに。

(白石会頭)
若者ですか。

(深山会頭)
若者が対象ですね。

(白石会頭)
今、愛媛県では、いわゆる婚活は法人会で非常に熱心にやっております。大勢の人が登録をしてくださって、いわゆる集団お見合いですけども、すごく頻繁にやっているんですけども、そういうものの拡大版みたいなのですか。

(深山会頭)
そういうことです。出会いの場を作ろうと。

(湯崎知事)
広島の方が愛媛に行ってお嫁さんを探す、あるいは逆とかそういうような。

(深山会頭)
そうです。

(中村知事)
いいですね。
島で結婚式を挙げるのを条件にして。

(湯崎知事)
それもぜひ、実施主体というか、これもやっぱり青年部かJCみたいな。

(中村知事)
広島がちょっとどうなっているかわからないですけど、愛媛県は結構深刻な問題だったので、県がかなりお金を出して婚活事業を始めました。

(湯崎知事)
県で。

(中村知事)

県が「えひめ結婚支援センター」の事業そのものを愛媛県法人会連合会に委託をして。2～3年でもう2,000組ぐらいのカップルができて、結婚も申告があっただけで100組を超えていますから、具体的に成果が上がっているの、何かそれと連携できる場所があれば。

(湯崎知事)

なるほど。そしたら法人会ですか。

(深山会頭)

そうですね。

(白石会頭)

会議所と法人会、大体皆さん、同じメンバーなので。

(深山会頭)

そういったことが、全国で展開されているというので、広島も町の賑わいにもつなげていこうと。

(湯崎知事)

なるほど。それもちょっと我々の受け皿を少し考えさせていただいて。

(中村知事)

それと、1つよろしいですか。

さっき湯崎知事さんからご配慮いただいたフードフェスティバル。広島のようにそこまで大規模ではないんですけども、実は今回、先々週初めてやったイベントがありまして。松山市の中心部に、お城の下に広いセントラルパークが完成したんです。そこを有効活用しようと思ひまして。これまで愛媛県がやっていた産業まつりというのはあまり規模が大きくなかったの、市長時代知らなかったぐらいですからちょっとどうなのかなと思ひついで、今回初めて愛媛県と松山市が産業まつりを合体させまして、「えひめ・まつやま産業まつり」として、堀之内の公園、スペースいっぱい使って2日間にわたってやったんですけども、2日間で10万人ぐらいは来るイベントで、これは松山にとっては非常に大きな集客がありますので、ぜひ広島のお好み焼きとかカキフライ、カキは時期的にどうかというのもあるけども、飛ぶように売れると思ひますので、ぜひご参加いただけたら。

(湯崎知事)

わかりました。きっと喜んで行くと思いますので、そういう連携を図るということで。

(深山会頭)

毎年この時期に実施されているのですか。

(中村知事)

そうです。

(湯崎知事)

ありがとうございます。

そういうことでいろいろなアイデアがあると思います。そういう意味では、引き続きこういったいろいろな連携できるものを、今後も探していくと同時に、せっかく挙げました今の幾つかのプロジェクトについては、ぜひうまくいくように連携しながら進めさせていただければと思います。

特に「海の道 構想」、それからそこにつながります「大・島博覧会」というものは非常に重要になってくると思いますし、その中でまたサイクリングも非常に重要だと思いますので、官民一体となってやらせていただければと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

「2 インバウンド観光等の広域観光の推進について」

(湯崎知事)

続いて、同じようなテーマでありますけれども、インバウンドについての議題に移りたいと思います。それでは、インバウンドは中村知事からご発言をお願いしたいと思います。

(中村知事)

インバウンドについて、せっかく両県ともにそれぞれが対外的に取り組みをし、情報発信を進めている広報宣伝がありますので、協働して行うテーマがみつかったときには、両方で宣伝し合うことによって相乗効果が絶対出てくると思うので、そんな連携ができればなというふうに思っています。

それともう1つは、旅行商品の問題なんですけども、私もよくわからないところがあるんですけど、意外と旅行業界、観光業界というのは、県で1つのくくりがあり、次のくくりがブロックになっているらしいんです。そうすると、例えば四国だったら四国のブロックで愛媛県の旅行会社が企画をする場合に、四国の中を優先させるがゆえに、なかなかほかのエリア、中国だったら中国との商品に踏み込めないと、そういうことがあるやに業界

筋の方からお聞きしたことがあるんです。ひょっとしたらそれがこの商品的なアプローチの弱さの1つの原因なのかなというふうにも個人的には感じています。

ですから、それを突破するのはやっぱり行政や経済界の交流なのかな。そういう取り組みが前面に出てくることによって広域の旅行商品へとつながっていく可能性が十分に出てくるんじゃないかなと、風穴をあけて、それで両方がよくなればいいと話なので、そんなこところも1つ考えておく必要があるのかなと思いました。

それから、これはもう1つ、広島県というよりは市のレベルになると思うんですが、実は昨年まで松山市の「坂の上の雲のまちづくり」をやっていたんですが、これは明治期から大正に至る、船、海軍とかそういうところがテーマになった作品ですけども、実はその後の歴史は呉等々にバトンタッチされていくわけですね。ですからコースとしては、歴史というものを1つの要素として物語が作れるかな、そんなふうなことも商品開発の視点には必要になってくるのかなと思います。いずれにしても、ブロックをまたいだ商品開発というのがインバウンドの増加につなげる1つの大きな切り口になってくるかなというふうに思っています。

(湯崎知事)

ありがとうございます。

我々もおっしゃるとおりだと思っております、従来でいけば山陰、山陽、四国という分け方なんです。これはどの旅行会社のパンフレットを見てもこうなんです。ですから、「瀬戸内 海の道構想」というのはまさに、そういうくくりじゃなくて、瀬戸内というくくりをやっぱり作っていくということが重要ではないかなと。それによってこの地域を1つの地域として、お客さまの認知を高めていくということだと思っております。そうすると商品もできてくるし、今は、旅行会社を経由してではなく、個人が直接宿を予約してというのがかなり増えていますので、そういったときにでも県境を越えた移動をしてくれるのではないかなと考えております。

そういう話になるとまた戻ってしまうんですけども、ちょっと先ほど申し上げ忘れてしまったのですが、台湾はこのサイクリング熱というのが、今アジアで最も進んでいるのではないかと思います。私が去年の4月に台湾に行きまして、その答礼として秋口に台湾からメディアも一緒に来ていただき、台湾国内でメディアにしまなみのサイクリングについて放映をしていただきました。

そうすると非常にやはり受けがよくて、広島の台湾便の稼働率というのが上がって、便数も上がったという結果になっております。これをぜひ継続をしたいと思っております、実は、今度私がまた台湾に行かなければいけないというか、行きたいなと思っております。また、しまなみもPRしていきたいなと思っておりますが、せっかくですので、ぜひ、この機会に中村知事もご同行をお願いできないかなと。一緒に行かせていただいて、共同でまさにこの共通のサイクリングロードの宣伝をしたら、台湾でもインパクトが強いのではな

いかなと思っておりますので、ご提案させていただければと思います。

(中村知事)

実は今週台湾に行くことになっていまして。下準備してきます。広島と一緒にいろいろなことを考えますというのも、僕の人脈でも伝えてこようと思っております。

なぜ私が台湾と関わっているかということ、広島みたいに大きく、人口多くないですから、定期便というのはなかなか難しいんですが、昔からチャーター便を松山空港に飛ばそうと思っていたんです。それも目的がありまして、台湾には今こちらから飛んでいる桃園国際空港と、国内線専用の小さい空港があるんです。この小さい空港の名前が松山空港というんです。ショウザン空港。5年前から考えていたんですが、松山空港発松山空港行きのチャーター便を飛ばしてくれというアプローチをしていまして。ところが、ここは羽田とか主要都市には飛ばしているんですが、小さいからキャパがあまりないんです。今、関係者は皆面白いねと言ってくれているんですが、日本で言う運輸局、民用航空局というのがあって、国の役人さんというのは同じやなと思ったんですけど、なかなか面白いという感覚がわからないですね、機械的で。そこを今、突破口を開こうと思ってやっているんです。例えば、世界的な大きなイベントをやるときは、向こうから広島に来て、しまなみで愛媛に渡って、帰りは松山発松山行きとか。そんな面白さというのが人を引きつける大きな要素になると思うので、こちらはチャーター便でありますけども、松山 松山はいいんじゃないのというのも、また側面的にバックアップしていただけたらと思います。

(湯崎知事)

ありがとうございます。

まさに、ルートを考えるときに広島イン松山アウトとか、松山イン広島アウトとかというのを含めるといいと思いますので、ぜひ。

それでは両会頭からもお願いできればと思いますが、白石会頭。

(白石会頭)

今の件で言ったら、例えば我々はハワイとかグアムとかに行ったら、夕方のサンセットクルージングで、船で夕食をして夕日を楽しむというのがあるんですけども、瀬戸内海の場合、もう1つそれに適した船がないような気もするんですが、例えば広島空港から入って、船で松山に来て、松山空港から帰るとか、そんなこともあると思う。やはりクルージングというのは瀬戸内海を活用した1つの大きな目玉になるんじゃないかと思うんですけども。なかなか民間では成功するかしないかわからないのに大きな投資というのが割合難しいのかもしれないんですけども、何かもう少しその点も進めばいいなと思うんですけども。

(湯崎知事)

ありがとうございます。では深山会頭。

(深山会頭)

インバウンド事業の促進ということで非常に重点を置いて取り組んでおる中で、中国からの修学旅行生を誘致しようということをやっております、今年初めて大連市から小中学生が参りまして、松山にもお伺いしたんじゃないかと聞いております。

こちらから向こうの商工会議所へ、今年2回にわたって訪問したんですが、今度は11月に、近日ですが先方からトップを含めて来ていただけるということで、そのときに愛媛、松山にも寄っていただくということになっておりました。今日入った情報によりますと、ちょっと都合ができて来られなくなったということだったので、できれば広島の方へ白石会頭に来ていただいて、一緒にこちらのPRをしたらどうかと、ちょっと今思いついたところなんです。

(白石会頭)

ありがとうございます。

(深山会頭)

できればよろしくお願ひしたいと思います。

(白石会頭)

5年ぐらい前、もうちょっと前に、体育協会か何かで韓国の小中学生と愛媛県の小中学生が新居浜かどこから船に乗って松山港まで、何かの催しの最後の打ち上げだったと思うんです。言葉はほとんど通じないんですけど、ものすごく子ども同士の交流があっという体験だったと思います。ただ、いろいろな舞台に出てやるのがみんな韓国の学生で、日本の学生はちょっと消極的だったので、私はあのときはショックを受けたんですけども、そういう一緒に何かやるというのは非常に面白いと思います。

(湯崎知事)

ありがとうございます。白石会頭のおっしゃられたクルージング、これも我々非常に重要だと思っております、ただ他方で行政がまた何か投資して船会社を運営するというのも、これはなかなか難しいので、どういうふうに進めていこうかなと我々も頭を悩ませているところでございます。

他方で、一部にはこういったクルージングメニューをサイクリングとセットで提供するという動きであるとか、あるいはカタマランのようなものを用意して提供するというような動きも、民間事業者の中で徐々に始まっておりますので、1つの動きとしてはビジター

パスの制度と言いますか、これを使いやすいようにしていく。例えば予約がインターネットで簡単にできるとか、空き、満空情報というのは通常ありますけど、そういったものが提供できるとか、そこでインフラ整備と事業者に対するサポートというものを考えていくのかなと考えております。これもまた「海の道構想」なんかで具体的にご相談させていただければと思います。

それから今の修学旅行の件、深山会頭にご発言いただきましたけども、これもちょっとしつこくて恐縮なんですけども、「海の道構想」なんかで非常に大事だと思うのは、広域観光というのは、これはやっぱりお客さんを融通し合うというこの発想ですね。俺のほうで全部抱え込むということじゃなくて、ここへ来たらあっちにも行ってよという、お互いのお客さんがまた別のところに行けば倍になるというか、そういうことをぜひ進めさせていただければなと思います。

それから、これもまたご提案ですが、2つトピックがございます。1つが今度新しい映画で『ももへの手紙』というのが、来年の5月を目途に公開されることになっております。角川映画のアニメなんですけども、架空の島となっているんですが、実は舞台になっているのは大崎下島なんです。いわゆる御手洗であるとか大長みかんの大長、これが現実と全く同じような形でアニメの中に登場するということになっているのと、あと実は一番最後盛り上がるシーンと言いますか、感動的なシーンが今治の桜井の宮島様という、わら船を流すお祭りがあるそうでした、これがその最後の一番感動的なシーンです。

そういう意味で、まさに広島と愛媛のいいとこどりをしたような映画になっておりまして、私も実は試写会を見たのですが、これは非常に受けると思います。声優も非常にいい人を使っています、まだ声優の名前を言っちゃいけないということになっているので申し上げられないですけど、外国の映画祭、トロントの国際映画祭とか釜山の映画祭にも出品依頼が来て、非常に絶賛されているということでもあります。

この『ももへの手紙』は、この瀬戸内のプロモーションの一番重要なものになると思うので、ぜひ連携をさせていただければなと。ちなみに全国300館で上映するということなのでかなり大々的なものになると。

それからもう1つが、ウィンタースポーツでありまして、これも既に中村知事のご協力をいただいて進め始めているところなんですけども、夏に愛媛のアクロス重信に広島の子もたちが行かせていただきまして、このスノーボード教室に参加させていただいたんですけども、この冬にはスノーフェスティバルというのを広島県で企画をしております。雪合戦をやったり、あるいはワールドスノーボードフェスティバルという、オリンピックとかワールドカップの選手に来ていただくイベントも進めております。子どもたちにも非常に好評だったと思いますので、今回のこの冬のイベントには、ぜひ愛媛の子どもたちにたくさん来ていただいて、山でのスノーボードというのを楽しんでいただければと思っておりますし、これから相互交流として引き続き継続していくというふうに進めさせていただければと思っております。

(中村知事)

『ももへの手紙』,非常に興味深いです。今お話があったように,愛媛のほうでも大崎下島が舞台,そして今治の文化が登場とか,うまくリンクさせてPRするという形が取れないかなと,今ちょっとお聞きして考えていました。何かいろいろと知恵を絞ってみたいなど。来年5月の公開ですよね。広島も含めた宣伝ができないかなということも問いかけてみたいなどと思います。

それからウィンタースポーツ。湯崎知事はスキーの選手ですよね。僕も昔スキーをやっていたので,ただし僕はスノボーは全くできないんですよ。だから,ちょっとスノボーになると腰が引けるんですが,ただ今もう実際スキー場に行くとスノボーのほうが多いんでしょう。広島のスキー場でもそんな感じですか。

(湯崎知事)

そうですね。半々ぐらい。

(中村知事)

アクロス重信という,年がら年中使える施設が東温市というところにありますし,それからそこでは前回の冬季オリンピック代表,次も今のまま順調に行ってくれば代表になってくれる青野君という選手もいますし,ぜひ連携をして子どもたちに夢を与えるような企画へとつなげていけたらと思います。

こちらのほうから1つ,この前湯崎知事にもお越しいただいたんですけども,常設の劇場がございまして,開館7年目を迎えますが,坊っちゃん劇場というのがございます。これは瀬戸内や愛媛,場合によっては広島でもいいと思うんですが,その地域の素材をミュージカルにして1年間上映するというので,非常にレベルの高い上演で好評を得ていますので,ぜひ広島の皆さんにも知っていただけたらなと思います。商工会議所のほうでお世話になりまして,何回か広島でも出張公演した経緯もございまして,またこちらもうまく文化行事として広島の何かと絡めていくとか,そんなことも模索していきたいと思っています。

(湯崎知事)

ありがとうございます。坊っちゃん劇場は私も「誓いのコイン」を拝見させていただいて,すごく素晴らしい。俳優の皆さんも素晴らしいし,劇場も素晴らしいし,ストーリーも素晴らしい。これはまたぜひ皆さんに宣伝をして,アクロス重信に行ったら坊っちゃん劇場へと,温泉にも入ってもらってと,そういうのを薦めさせていただければと思います。

それでは両会頭から何かございますか。

(深山会頭)

そうですね、今の坊っちゃん劇場、「誓いのコイン」ですが、私も最初、湯崎知事と一緒に見させていただいて、その後広島の松井市長も見られて非常に感動して帰って来られまして、まず第一声がぜひともそういった常設劇場を作ろうという話がありまして、これには私も前々から言っておったのですが、その「誓いのコイン」そのものが非常に感動的なストーリーなので、その広島版にアレンジしたものができないかなと。まだアイデアレベルなので、そんな話もしておるところでございます。

(白石会頭)

坊っちゃん劇場では「子ども舞台芸術体験サポートシステム」と言いまして、私が今、後援会の会長なんですけど、いろいろな企業の人に参加していただいてバスの交通費とか入場料の応援とかをしながら、子どもたちを始めできるだけ多くの人に見てもらおうということで、そんなこともやっております。

(湯崎知事)

ありがとうございました。いずれにしても、インバウンドを含めて他地域からの観光、呼び込みというのは非常に協力、連携の余地があるというふうに思いますので、ぜひ協力させていただくと同時に、この情報発信も積極的にさせていただければと思いますので、よろしく願いをいたします。

「 3 しまなみ海道の通行料金等について 」

(湯崎知事)

次にしまなみ海道の料金体系等についてでございます。これについては、私から発言をさせていただければと思います。

しまなみ海道、これずっと本四架橋の料金の問題として国と地方の間で議論になっておりますけれども、しまなみ海道は特に生活道路としての位置付けというのが大きいと考えています。そういう意味では、島民の皆様の負担軽減のために、現在通勤割引あるいは平日昼間割引というのが実施をされておりますけれども、これは平成 24 年度以降も必要なものではないかと強く考えております。また、この沿線の観光振興という観点から言いますと、周遊ではありませんけれども、乗り降り自由なパスのようなものを作って、観光客の皆さんに、乗っても降りても、あっちの島からこっちの島に行っても同一料金であるという形の導入も必要なのではないかと思っています。

それからもう 1 つ自転車ですね。これについても、非常に特徴的なもの、他にはないものとして、自転車道の無料化を進めるのがいいのではないかと。実際に費用というか、料金自体もそんなに高くありませんし、本四架橋全体にしてみればその収入もたいしたこと

はないので、これをお願いしたいと思っております。

それからこれはちょっと余談になりますが、先ほどのブルーライン、これもできれば協力して、全ルートでこれが進めれば、ユーザーにとってはいいのかなとも思いますので、この点も協議をさせていただければと思います。これはちょっと余談でございます。

それから追加出資ですね。追加出資も今大変な課題になっておりますが、これは実際の今の時点で予測されるような交通量であるとか、あるいは金利ですね。金利も当初想定したものよりも相当低くなっておりますので、そういった最新データを使って償還計画をもう1回きちんと立て直すべきではないかと思っております。

その際には、今やや硬直的にとらえられております償還期間、しまなみ海道全部がただになるというのをすぐにして欲しいという大きな期待値はないと思いますので、償還期間の延長も含めて少し見直しをすべきではないかと思っております。それを踏まえて、関係の府・県・市が10ほどございますけども、協力して取り組んでいく必要があるだろうと思っております。

(中村知事)

まず最初にご指摘のあった生活道路は、もう全くそのとおりだと感じます。特に高齢化が進んでいますから、島民の皆さんが病院へ行く、そのときに料金が高いので病院へ行くのをやめようとか、実際そういう話も伝わってきますし、生活という観点でとらえるときにどうあるべきなのか。少なくとも今の割り引きの継続は必要で、これ以上料金が上がるようなことがあったら島民生活に多大な影響が出ることは必至ですから、これはもう人が生きていくための問題としてとらえて、湯崎知事と一緒に頑張って働きかけを強めていきたいなと思いますし、もっと言えば生活道路が本当にこれでもいいのかと言うところの議論まで持っていく必要があるんじゃないかなと、今の段階では着地点がどこかというのは明確にはわかりませんが、大きなテーマだと感じています。

それから乗り降り自由というのは非常にいい視点、面白いなと思いました。特にさっきのインバウンドのときに触れた商品開発に、この制度は必ず必要になってくると思うんですね。それとパックにしてどうだとかいうようなことにもつながってくるので。こんなのをやったら面白いですよという提案、私もやったことがあるんですけど、本当に結構、頭が固いですよね。なかなか新しいことに踏み込まないような空気があるなというのを感じたことがあります。

それから自転車道もまさにその一環なんですけど、これはもう一県がやるよりは、絶対に一緒にプレッシャーをかけましょう。世界中見渡しても、橋で自転車を渡るときに料金を取るような場所はないんだそうですね。この前国交省の素晴らしい道ベスト幾つかとかいうのがぱーっとパンフレットに出ていたんですよ。サイクリングロードのベスト10とかいうのを出していたんですよ。一番がしまなみ海道になっているんですよ、国交省のデータにおいても。ところが、その中で有料なものしまなみ海道1カ所だけなんです。これは恥ずか

しい。世界標準にもなっていない。外国からお客さんを迎えたときにびっくりされますよという話を結構しているんですが、未だに動かない。

次に、経営の根幹に関わるというのもよく聞くので、興味があったので一体どれぐらいの収入があるのか調べたら、自転車の収入は年間 600 万円ぐらいしかないんですね。これが経営の根幹という話につながるのはどう考えても解せない。むしろそれよりも、しまなみ海道の魅力を上げるためには、無料化は選択肢としてぜひ必要なことじゃないでしょうかということ、これはもう湯崎知事と一緒に頑張ってがんがんやりたいなと思いますので、経済界もぜひよろしくをお願いします。

それから最後に追加出資なんですけど、これはそもそも平成 24 年度までは地方の追加出資をという約束だったはずですよ。ちょっと情勢が変わったから引き続き今までどおりという話が去年あたりから出てきていて、それは違うでしょうと。ましてや今の厳しい財政事情で、広島もそうですけど年間 53 億円を今まで歯をくいしばって払ってきたわけですよ、約束に応じて。情勢が変わったから更にまた引き続き払えというのは虫がよすぎるということで、強硬に私は反対をしているんですが、10 府・県・市と足並みをそろえて対応をしていきたいと思っています。

(湯崎知事)

ありがとうございます。それでは、両会頭のほうからもございましたら、お願いいたします。

(白石会頭)

実は私、あまりしまなみ海道を利用したことがないんですが、この料金体系を見ていても、ずば抜けて高いですよ。これだけの投資をしたものをやはりもっと使わないと本当に財産の無駄遣いだと思いますね。今の通行料金収入が確保できることが前提ですが、利用率を上げるためにも、より利用者の声を反映させた料金体系にすべきではないでしょうか。

それから出資の件はもう当然、各県歩調を合わせて頑張っていたいただきたいなと思います。

(湯崎知事)

ありがとうございます。それでは、深山会頭をお願いします。

(深山会頭)

お話のありました乗り降り自由なパスの発行でありますとか、自転車の通行料金の無料化、これはもう大賛成、同意見でございます。まだ 1 つ意見が出ておりますのは、単純に観光としての柔軟な料金制度にしたかどうかということですけども、ある島で降りてその観光みやげ店で買い物をした場合に、次の島へ行く道路の料金を割り引きするとか、

そんなことをやれば、ぱっと一気に通過してしまうのではなくて、やはり降りる人が島の経済に貢献するということもあるんじゃないかというのも、今まで聞いたことがございます。

(湯崎知事)

ありがとうございます。

それでは、まず1つは料金については、愛媛・広島両県で連携をしながら国に対して強く求めていきたいと思えます。特にほかの県の橋は、大体もう通過型というか、ただ渡るだけというのが基本ですが、我々は全く違った形ですので、この両県の協力で進めたいと思えます。また、追加出資についても協力をさせていただきたいと思えますので、よろしくお願いをいたしたいと思えます。

それでは、以上で一応意見交換のテーマは終了ですけども、何か言い残したことがございましたら。

(白石会頭)

広島空港の国際線の便数の多さと、お聞きしたら、利用率も非常に高いということで、非常にうらやましく思っているんですが、何か秘訣があれば教えていただきたいなど。人口だけでもないんじゃないかと。空港同士のいろいろな連携を取る方法もあるんじゃないかなと思ったりもするんです。こちらから行く人と向こうから来る人の割合とかはどんなですか。圧倒的にこっちから。

(湯崎知事)

アウトバウンドがやっぱり多いというのが現状です。日本から出るほうが各地域とも多い。ただ、台湾の場合にはインバウンドが今ちょっと増えているという形です。ただこれからの協力としては、おっしゃるように、今インバウンドの協力をしておりますので、先ほども出たようなインとアウト、特にチャーター系の場合にはそういったことが運営できるのではないかなとも思えますし、旅行商品としてそういうのを提案していくというのはあると思えます。それはまたぜひ協力をさせていただければと思えます。

その他、何かございますか。

すみません、私から1つあるんですけども、実は外からのインバウンドとか、広島とか愛媛の外からお客さんを引っ張ってくるというのももちろん大事なんですけども、広島から愛媛、愛媛から広島へというのも重要じゃないかと思っております、先ほどのお祭りの件であるとか、「街コン」というのもその一環だと思います。

そういったことを情報発信していくに当たって、相互のそれぞれ広報媒体をお持ちだと思います。我々はテレビ、それから、今新聞に全面広告を出しているというのがございます。こういった媒体を通じまして、それぞれの宣伝をするというのを行ってはどうかと

思っております。

これは、実は岡山県とは既にやらせていただいております、岡山県で国民文化祭があったときに、広島の中で広報をさせていただいて、また、広島のことを岡山県で広報させていただいたというようなこともございますけども、例えば『平清盛』に合わせて観光PRというのも、これもまたぜひ愛媛からもたくさん来ていただきたいと思っていますし、その際に愛媛県の広報誌等をお借りできるといいかなというふうにも思います。広島もぜひご提供させていただきたいと思いますので、よろしければご検討いただければと。

(中村知事)

それはもう、大いに大賛成です。実は今のお話を聞いて、1つ、すぐできることがあるのかなと思ったのが、ホームページ上で、例えばうちのホームページに広島イベント情報とかいうのをバナーを作ってぱっとリンクするようにする。広島のほうにもどこかにバナーを作ってボタンだけでこちらに飛ぶようにしておくというのはたちまちできるかなと。

(湯崎知事)

それはすぐできますね。

(中村知事)

活用できると思ったんですけど。

(湯崎知事)

そうですね。イベントのページをお持ちになれば。

(中村知事)

そうですね。

(湯崎知事)

我々も確かあると思いますので、じゃあ、そこに飛ぶように。

(中村知事)

ぜひ事務局のほうで相談をして、検討をしてみてください。

(湯崎知事)

ありがとうございます。ちなみに広島県のテレビ広報、「みんなでつくるけん！ひろしま」というのがあるんですけど、平均視聴率12%。いい時間で、いい番組の間に挟まっています、なかなか視聴率が高いので、ご活用いただければと思います。

「 4 P R 事項 」

(湯崎知事)

それでは、相互 PR に移りたいと思います。

中村知事からおっしゃっていただきましょうか。

(中村知事)

四国は本州側と比べて高速道路網の整備が非常に遅れていまして、よく知事会でも四国各県の知事からも発言があるんですが、計画では四国 4 県を八の字で結ぶというルートの計画があるんですが、まだ全然つながりきってないというので、ミッシングリンクの象徴的な場所として残っています。

実は来年の 3 月に、松山から南の、高知へ向かってですけども、宇和島市というところまで高速道路が延伸する予定になっていまして、これで松山から宇和島まで 1 時間半ぐらい、今までは 2 時間半ぐらいかかっていましたから、一気に短縮することになります。それに合わせて来年は「えひめ南予いやし博 2012」。南予ってあまり道路が発達していなかったのだから知られてないんですけども、自然が残っている非常に素晴らしいところでもあるので、癒しの空間として半年間イベントをやる予定ですので、PR をさせていただけたらと思います。宇和島を中心とした圏域が様々な趣向を凝らしまして、お越しいただく方をお待ちしています。

それから坊っちゃん劇場は先ほども申し上げましたが、この前ロシアの青年たちが国際交流の関係で二十数名来たんですけども、「誓いのコイン」に涙、涙の大感動で、ロシアに帰ってから、あの「誓いのコイン」をモスクワに呼ぼうというような動きが始まりまして、実現するかどうかわかりませんが、本当にその気になっているような情報が入ってきましたので、ちょっとご参考までに。

それから、愛媛県では、まだ量は少ないんですけど、甘とろ豚という、コラーゲンの豊富な豚の開発に成功しまして、非常に好評を得ています。フジグラン広島で 10 月から販売を開始しましたので、1 度味わっていただけたらと思います。また、今新たに赤みの多い牛肉の開発に入っておりますので、3 ~ 4 年かかるとは思いますけども、これも登場したらまたご案内させていただきたいと思います。

それから最後に、愛媛県は東予地域が工業地帯になっていまして、紙パルプ産業と造船、タオル、それから住友関連、昔鉱山があったので住友化学、住友重機なんかはそこから誕生したんですね。そういう先端技術の中小企業がたくさんあるので、今回データベースを作りまして、これから中小企業の技術をいろいろなところで紹介していこうと思っておりますので、パンフレットも置いてまいりますのでぜひお受け取りいただけたらと思います。「愛媛ものづくり企業『すご技』データベース」といいます。

以上でございます。

(湯崎知事)

ありがとうございました。

それでは広島について私から、まず1点目は来年いよいよ「平清盛」ということで、もう11月が目前でありますので、間もなく始まるといったところです。ぜひ愛媛の皆様、これを機においでいただきたいと思いますし、清盛が統括をしたこの水軍というのは、愛媛も広島もないという感じで一緒だと思いますし、いわゆる厳島神社ですね、市杵島姫をまつた厳島神社、これは愛媛にもたくさんあると思いますので、協力して観光誘致を進めさせていただければと思っております。

それから次に、これはまだ少し先の話になりますけども、平成25年に全国菓子博覧会を開催いたします。4月19日から5月12日まで24日間になるんですが、旧市民球場跡地、それから県立総合体育館、ここを使ってやります。「世界に届け！笑顔をむすぶお菓子のちから」というテーマで開催いたしますので、ぜひこれは皆様、おいでいただければなと思っております。

ちなみに、これは広島では2回目でございます、そのときの開催した場所が、産業奨励館というところでいわゆる今の原爆ドームです。92年振りに行いますので、ぜひ願います。

それから最後の1つ、これは我々の半分自慢でもあり、非常に役立ったので、愛媛県にもぜひと思っているんですが、実は我々、今年メガソーラーを作りました。このメガソーラーは、今福山で作っているんですけど、その福山のメガソーラーじゃなくて全然違うメガソーラーです。これは何かというと、交通信号の電球、LED化されていない普通の電球の信号がありますよね。この信号の電球を、2億円ちょっとかけて電球だけLEDに取り替えたんです。そうすると、年間の節電量が3メガワットのメガソーラーの1年分の発電量に匹敵するというので、年間4,000万円ぐらいの費用削減効果があります。

3メガのメガソーラーを作ると10億円近くかかると思うんですけども、それが2億円ちょっとでできるということで、投資回収もすぐにできますし、節電にも大きく貢献しますので、ぜひ採用されてはいかがでしょうかという、エコな県政ということでご紹介させていただきたいと思います。

以上でございます。ありがとうございます。

4 閉会あいさつ

(伊達部長)

それでは本日の交流会議を終了させていただきたいと思います。閉会に当たりまして、中村愛媛県知事様からご挨拶をいただきたいと思います。どうぞよろしく願います。

(中村知事)

今日は限られた時間の中で、経済界のトップにもご参加いただきまして、湯崎知事から広島の話、そして私から愛媛の話を思う存分、自由に議論させていただきました。こういう素晴らしい場所を考え、また準備をしていただきました湯崎知事をはじめ関係者の皆様に、心から感謝を申し上げたいと思います。

シナリオなしでどんどんフリーディスカッションで、逆にそれがすごく楽しくて、こういうアイデアもあるのかと、本当に私自身も勉強になりました。もちろん時間がかかるものもありますけど、すぐできるものもたくさんあって、最後にご提案いただいたLEDなんかは、もう帰ったらすぐ検討に入るぞと、今ここで決意をしているところでございます。

それから、広島はいよいよ来年大河ドラマ『平清盛』ということで、この12月には『坂の上の雲』の最後の第3部が放映予定でありますから、いい意味で愛媛からのバトンタッチ、リレーになるなと思いますし、時代背景も全く違いますから、そういうドラマの連携というのも面白そうだなというふうに思いました。

いずれにいたしましても、やはり共有する宝を持つ広島と愛媛が協働して当たる政策の可能性というのを、今日の話し合いの中で改めて再認識したような気がいたします。これからもどうぞよろしく願い申しあげまして、お礼の言葉とさせていただきます。どうもありがとうございました。

5 閉 会

(伊達部長)

どうもありがとうございました。

それでは以上をもちまして、交流会を終了いたします。本日はご協力、どうもありがとうございました。

(一同)

ありがとうございました。